

調査・実践報告

第二外国語としてのスペイン語科目コース改善のための 学生アンケート調査結果

－ 順天堂大学国際教養学部 2019 年度春学期の場合 －

小橋 さおり^{1)*} トラルバ・カルロス²⁾

ロドリゲス・マリア デラス ニエベス³⁾ 敦賀 公子⁴⁾

要 旨

順天堂大学国際教養学部では、2019年度に第二外国語としてスペイン語を学ぶ学生が前年度の約2倍に増加した。これを背景に、より効果的なスペイン語学習コース（プログラム）の構築を目指して、履修者の学習状況・目的およびニーズを把握するためのアンケート調査を実施した。今回の調査では、スペイン語教育研究会が作成したスペイン語教育改善のためのアンケート調査（GIDE, 2012）の質問票を使用した。対象は、2019年春学期にスペイン語科目を履修した1、2年生129名である。本稿は、その結果を集計し、若干の考察を加えた報告である。本調査により、1年生グループ・2年生グループは半数以上の項目において異なる傾向を示すことが明らかになった。これを踏まえて、近い将来、プログラム改善の具体策に関する調査を実施する予定である。

キーワード

スペイン語、外国語学習、外国語習得、高等教育、ニーズ分析

1. はじめに

効果的な外国語学習コースのプログラムを設計するためには、学習者の置かれた状況や学ぶ理由、目標などに関する情報が必要である。

順天堂大学国際教養学部では、2019年度の入学者数が前年度の約2倍（2018年度の入学

者は122名、2019年度は250名）となり、スペイン語科目を履修する学生の数も大幅に増加した。

これに伴い学習者の状況やニーズ¹⁾が大きく変化している可能性があるため、目標やプログラムの見直し・改善のための基礎情報の収集

¹⁾ 順天堂大学・国際教養学部 (Email: s-kobashi@juntendo.ac.jp)

²⁾ 順天堂大学・国際教養学部 (Email: torralba@juntendo.ac.jp)

³⁾ 順天堂大学・国際教養学部 (Email: rodriguez@juntendo.ac.jp)

⁴⁾ 明治大学・商学部 (Email: ki-igarashi@juntendo.ac.jp)

* 責任著者：小橋 さおり

[2019年8月30日原稿受付] [2020年1月23日掲載決定]

を目的としたアンケート調査を行った。

本稿を発表する意義は、後述のように、アンケート項目によって1、2年生でグループの傾向が大きく異なったことから、外国語コース以外の教養科目の授業設計にも本調査結果が役立つ可能性が考えられるためである。

また、日本の大学におけるスペイン語教育の発展に貢献するという意義もある。現在大学で行われているスペイン語教育の大半は文法の教授が中心であるが、これは学習者が求めるものと一致していないという指摘がある(横山, 2017)。その一方で、本学部のように「外国語の運用力修得」を掲げ「外国語でコミュニケーションがとりたい」という学習者のニーズに合致させた教育を目指す大学もある。

大学におけるスペイン語学習のニーズ調査には、大規模に行われたスペイン語教育研究会(GIDE, 2012)や履修の動機について詳細に分析した平井・塚原(2014)などがあり、スペイン語教育向上のための基礎資料として多くの関係者に活用されている。今回のアンケート調査は、本学のスペイン語学習者ニーズに柔軟に対応し、より高い教育効果を有するプログラムの構築を目指して実施したものであるが、今回得られた分析結果もまた、スペイン語科目のみならず広く教養教育向上のための参考資料としての価値を考慮して、発表するものである。

本稿での「第二外国語としてのスペイン語」という表現の使用については、『外国語としてのスペイン語教育キーワード辞典(Diccionario de términos clave de ELE)』(Instituto Cervantes, n.d)に記される定義に従うこととする。「第一言語」は母語、「第二言語」はその後に学習して身に付ける言語の事を指し、また、第二言語が居住国の公用語でない場合には「第二外国語」と呼ばれるというものである。従って、「第二外国語としてのスペイン語科目」という表現と本学のとる「複言語主義」の立場は矛盾しないことを付記したい。

本稿では、紙幅の都合上、共有することに特

に意味があると思われる結果のみを報告し、全項目の分析データは文末に掲載する。

2. 方法

2.1. アンケート調査の実施

対象は、本学部で第二外国語としてスペイン語科目を履修する1、2年生である。1年生は2019年4月12日、2年生は同年5月20日に実施した。授業時に、趣旨説明の後15分程で記入してもらい回収した。無記名で、性別、学年のみを記すこととした。収集データはエクセルの表に入力し、集計など²⁾の作業を行った。

被験者は計129名、その内、1年生が93名(男性30名、女性63名)、2年生が36名(男性18名、女性18名)であった。

2.2. アンケートの項目とデータ分析

今回の調査では、スペイン語教育研究会(以下、GIDE)が作成したスペイン語教育改善のためのアンケート調査(GIDE, 2012)の質問票を用いた。

構成は、設問AからOから成り、AとBは選択肢から、CからOは5(強くあてはまる)から1(全くあてはまらない)のうち1つを選択する。各設問のテーマは、A:履修の理由、B:スペイン語使用状況、C:使用目的、D:関心のあるテーマ、E:目標とする達成レベル、F:学習スタイル、G~K:学習ストラテジー、L~M:授業形態の好み、N:学習動機を促進する要因、O:学習者の心理的要因となっている(GIDE, 2012)。

GIDEの質問票を採用した理由は、学習者のニーズに関する項目の他に授業形態の好みや学習動機を促進する要因等、プログラムの改善に有用な情報を効率よく収集するために作られており、内容も分量も適当であったためである。

本稿における結果報告は1年生、2年生の両グループの傾向を把握することに重きをおいて記すこととする。データの比較に関しては、既に1年間スペイン語を学習した2年生の回答と

授業初日の1年生の回答では単純に比較出来ない点も少なからず存在するが、今後のシラバス改善を見据えて、2つのグループが異なる特徴を示すところは客観的な物差しを用いて観察しておきたい。このため、統計分析手法を採用し、2つのグループ間に有意差があるのか（異なる特徴を示すのか）という視点でもデータを検証することとした。その際、R(バージョン3.6.1)を用いてウィルコクソンの順位和検定を行った。有意水準は5%と定めた。

3. 結果

先述の理由により、A, B, C, E, F, L, M, Nの分析結果を図(グラフ)で紹介する。文末に全項目の質問文と結果を含む分析データを記載するのでデータの詳細はそちらを参照されたい。

3.1. 履修の理由

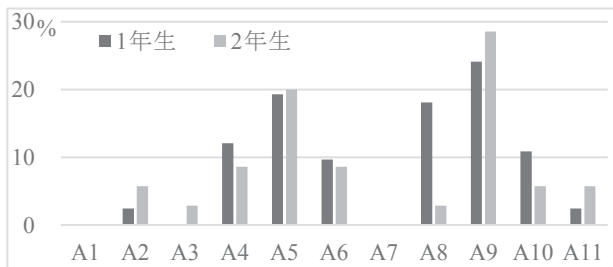


図1. 設問A (なぜスペイン語を選びましたか)の調査結果

A1	以前にスペイン語圏の国で暮らしたことがあるから
A2	以前に勉強したことがあるから
A3	自分や身内の誰かがスペイン語圏出身だから
A4	先生、友人、両親などに薦められたから
A5	スペイン語圏の文化—音楽、スポーツ、映画、文学、建築、歴史、食べ物など—に興味があるから
A6	旅行でスペイン語圏の国に行きたいから
A7	仕事(アルバイト)で必要だから
A8	将来的に仕事上で有利だと思うから
A9	スペイン語は世界でもっとも話されている言語の1つだから
A10	スペイン語は日本人にとって学習しやすいと聞いたから
A11	ほかに選択したい外国語がなかったから

設問Aで最も多かった履修理由は両学年ともにA9(スペイン語は世界でもっとも話されている言語の1つだから)、次いでA5(スペイン語圏の文化に興味があるから)であった。

学年別で大きな差が出た項目はA8(将来的に仕事上で有利だと思うから)で、1年生の得票割合は2年生の約6倍に達する。将来の具体的なビジョンを持ってスペイン語を選択した1年生が多いことが分かった。一方、A4(先生、友人、両親などに薦められたから)やA10(スペイン語は日本人にとって学習しやすいと聞いたから)のように動機付けが弱い選択肢を選ぶ1年生の割合が2年生より多かった点も注目に値する。

3.2. スペイン語使用状況

表1. 設問B(教室外でスペイン語を話す人と接する機会はありますか)の調査結果

	1年生	2年生
ある	10.6%	11.1%
ない	89.2%	88.9%

スペイン語を使用する機会のある学生は両学年ともに約10%であり、「ある・ない」の回答の割合がほぼ同じことが確認された。

3.3. 使用目的

設問C~Oは、5(強くあてはまる)から1(全くあてはまらない)のうち1つを選択する。ウィルコクソンの順位和検定により有意差が認められた項目($p < 0.05$)には、図内の質問項目右上に*という印をつけた。P値、中央値、標準偏差等は文末の資料(付録)を参照のこと。

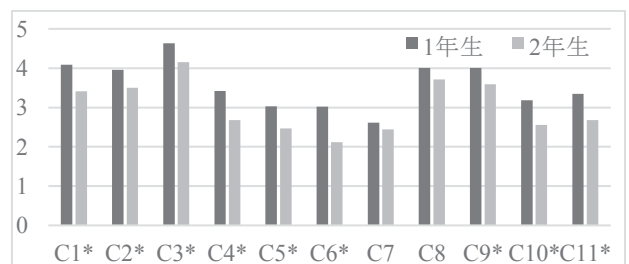


図2. 設問C (何のためにスペイン語を使いたいですか)の調査結果 平均値

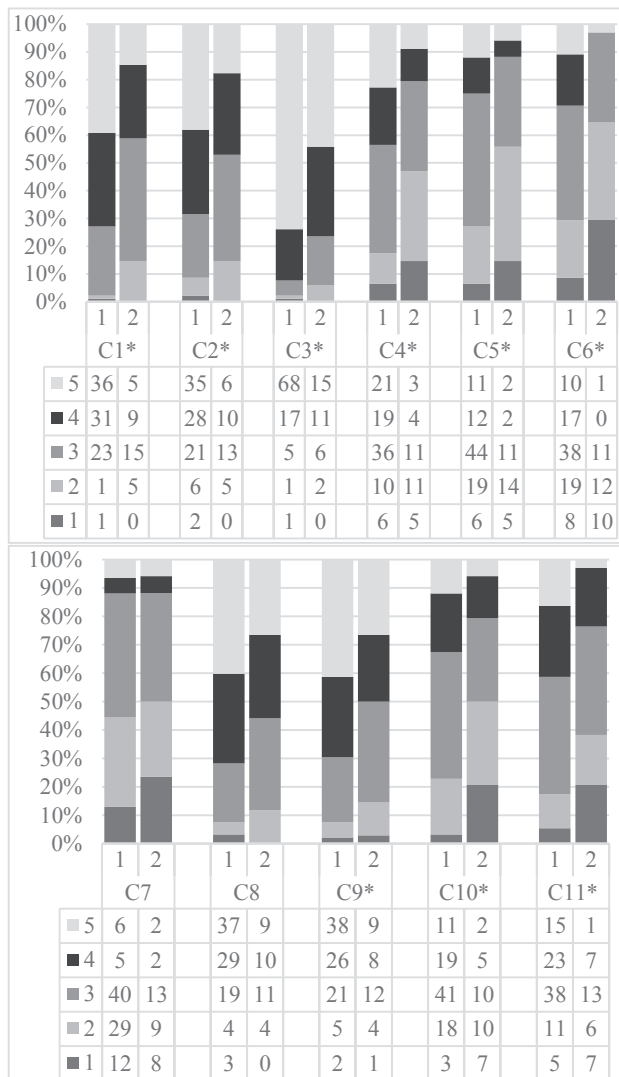


図3. 設問C (何のためにスペイン語を使いたいですか) の調査結果 回答分布 (対になっている左が1年生、右が2年生)

C1	スペイン語話者の先生と話すため
C2	日本に住んでいるスペイン語圏の人と話すため
C3	スペイン語圏に行った時に現地の人と話すため
C4	スペイン語の新聞、雑誌、インターネットサイトを読むため
C5	パンフレットなどを読んだり、申込書に記入したりするため
C6	小説などの文学作品を読むため
C7	自分の専門分野の論文を読むため
C8	テレビや映画のスペイン語を聞き取るため
C9	歌の歌詞を聞き取るため
C10	スペイン語でレポートや作文を書くため
C11	スペイン語でメール、手紙、日記などを書くため

設問Cの全項目において2年生より1年生のほうが高い数値を選択する傾向にあった(図2)。また、「読む」「書く」に比べ「話す」「聞く」のほうが高得点になる傾向も示された。

11項目のうち9項目(C7、C8以外)で1年生と2年生のデータ群の間に有意差が認められた($p < 0.05$)。回答分布(図3)でも、高い数値を選んだ1年生が多いことが確認でき、スペイン語を学ぶ意欲が高いことが読み取れる。

3.4. 達成レベル

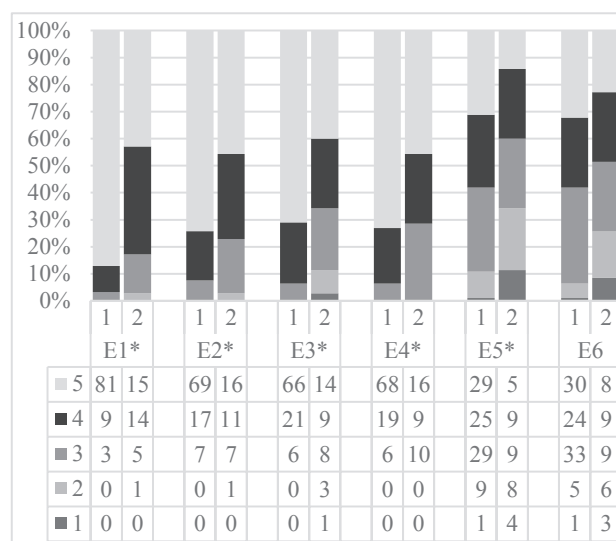


図4. 設問E (スペイン語を大学で勉強してどんなことができるようになりたいと思いますか) の調査結果 回答分布

E1	基本的な会話ができるようになる
E2	発音や文法のしくみがわかるようになる
E3	簡単な文章が書けるようになる (メール、申込書など)
E4	簡単な文章が読めるようになる (パンフレット、歌詞など)
E5	検定試験に合格する
E6	仕事や自分の専門分野の勉強で使えるようになる

設問Eでも1年生のほうが高い数値を選択する傾向がある。設問Cと併せて、スペイン語学習への高い意欲を反映していると解釈できる。

6項目のうち5項目(E6以外)で有意差が認められ($p < 0.05$)、図4でも2グループの回答分布が大きく異なることが視覚的に確認できた。

3.5. 学習スタイル

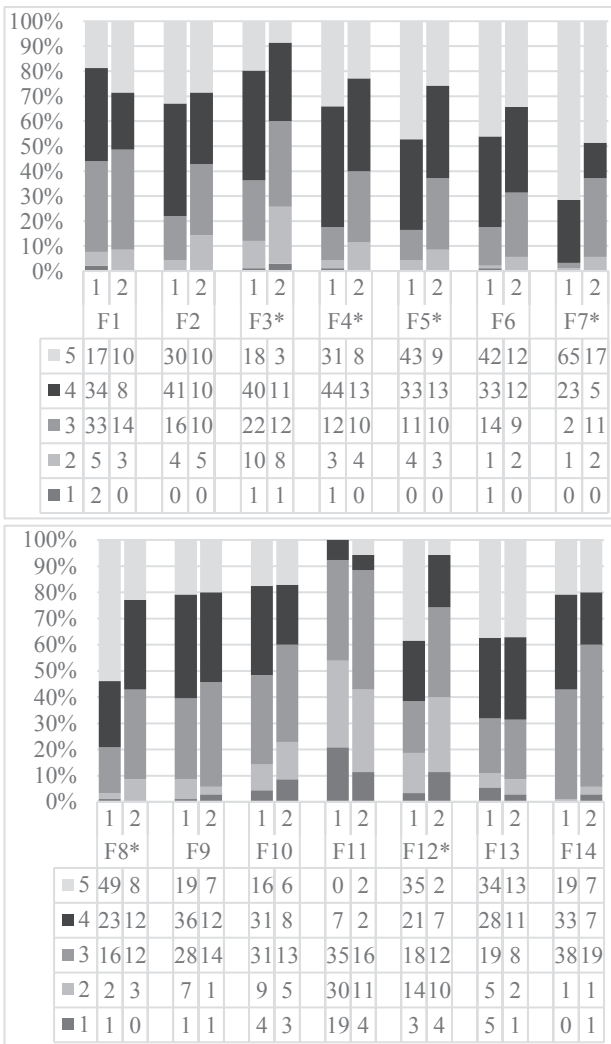


図5. 設問F (どんな学習の仕方が好きですか) の調査結果 回答分布

F1	先生がすべてを説明してくれる
F2	黒板やプリントなど目で確認しながら学ぶ
F3	あらかじめ定められた順序どおりに進む
F4	メモをとりながら勉強する
F5	文法規則を理解しながら学ぶ
F6	間違えたとき、なぜ間違えたかを考える
F7	音を聞きながら覚える
F8	友人や母語話者と会話しながら覚える
F9	穴埋めや置き換えなどのパターン練習をする
F10	想像力を伴う練習や即興で行う活動をする
F11	練習問題は一度やったら見直さない
F12	教室内移動、ジェスチャーをするなど体を使って覚える
F13	間違えることは気にしない
F14	手順を考えてから活動を始める

この設問では、有意差があるのは6項目 (F3, 4, 5, 7, 8, 12)、ない項目は8項目 (F1, 2, 6, 9, 10, 11, 13, 14) で、有意差のない項目のほうが多かった。

F8 (友人や母語話者と会話しながら覚える) やF12 (教室内移動、ジェスチャーをするなど体を使って覚える) では、1年生は半数以上が5を選んだが、2年生は票が分散している。一方、F13 (間違えることは気にしない) は、両学年がほぼ同じ割合となった。

3.6. 心理的要因

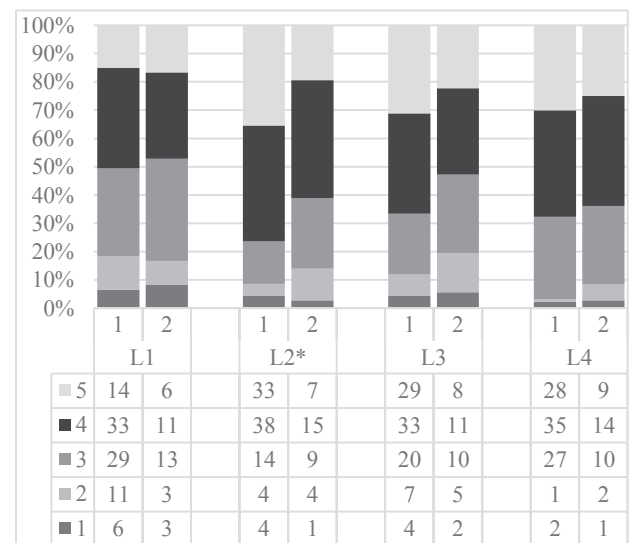


図6. 設問L (どのような形態の授業が好きですか) の調査結果

L1	1人で練習問題をする
L2	ペア練習
L3	グループ練習
L4	先生の説明をクラス全員が聞く

設問Lで有意差が認められた唯一の項目はL2 (ペア練習) である。わずかではあるが、L1 (1人で練習問題をする) よりL2～L4の授業形態のほうを好むことが示された。

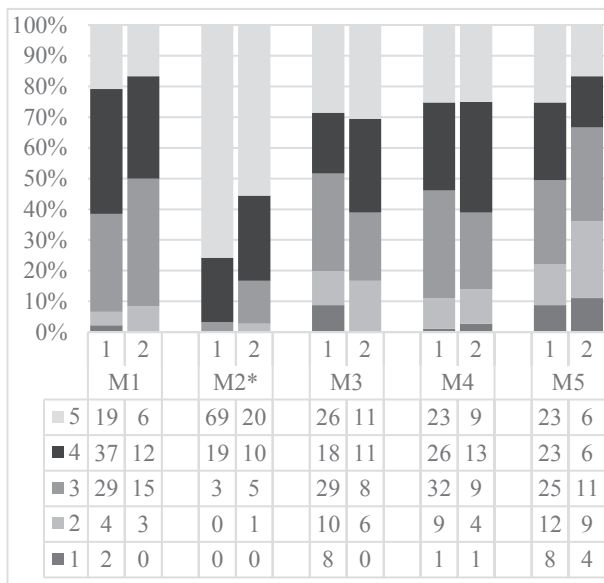


図7. 設問M (授業で好きなのはどの活動ですか) の調査結果

M1	教科書を使って学ぶ
M2	ビデオ、映画を見る
M3	ゲームをしたり、架空の役割を演じたりする
M4	コンピュータなどを使う
M5	歌う

両学年ともに特に高い数値を示したのがM2 (ビデオ、映画を見る) である。1年生の70%以上が5をつけており、設問Mではこの項目のみ有意差が認められた。

この設問で特に興味深い点は、M1 (教科書を使って学ぶ) とM3 (ゲームとをしたり架空の役割を演じたりする) のデータ比較で、1年生の平均値はM1 (3.7) > M3 (3.5) である一方、2年生はM1 (3.6) < M3 (3.8) となった (文末資料参照)。この理由として、2年生はゲームやロールプレイングを通してスペイン語を学んできたが、1年生はこのような学びの経験をまだあまりしていないという可能性が考えられる。

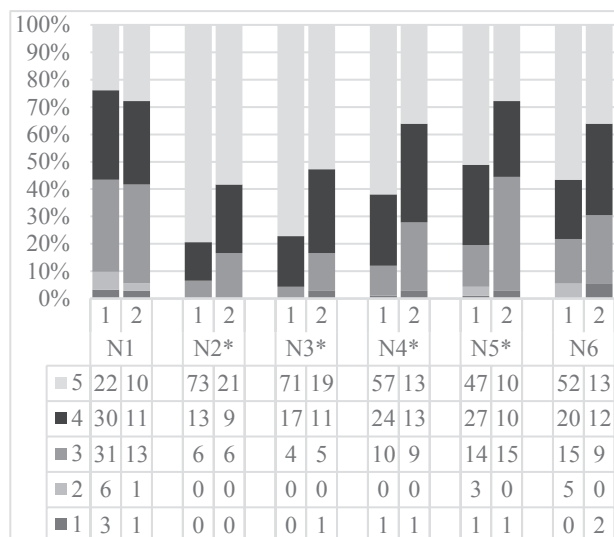


図8. 設問N (授業においてあなたにやる気を起させるものは何ですか) の調査結果

N1	良い教材
N2	先生の性格や指導力
N3	授業の雰囲気
N4	授業で味わう達成感
N5	良い成績をとれる可能性
N6	自分の将来に役立つ可能性

ここでは両学年ともに高い数値を選ぶ傾向が示され、1年生の数値は極めて高い。特にN2 (先生の性格や指導力)、N3 (授業の雰囲気) の得点が顕著である。N2~5で有意差が認められた。

4. 考察

46項目 (C, E, F, L, M, N) 中、26項目で有意差が認められ、1、2年生の間で異なる傾向を示す項目が多いことが確認された。これらの類似点を考慮した上で、授業を工夫し柔軟に対応していきたい。

学年別にみると、全体的に1年生のほうが2年生より高い数値を選ぶ傾向が示され、入学直後の高い学習意欲を反映していると思われる。2年生も入学直後は高い学習意欲を持っていたと想像されることから、やる気が減退した原因を解明する必要性も浮き彫りになった。

また、特筆すべき点は、両グループともにコミュニケーションへの関心が非常に高いことである。世界中の多くの人々とのコミュニケー

ションを可能にするため (A9)、スペイン語を選んだ学生が多く、基本的な会話ができるようになり (E1)、スペイン語を現地の人と話したい (C3) と考えている学生が多い。学習の仕方についても、友人や母語話者と会話しながら覚える (F8) 学習方法が高得点となっており、1人で練習問題をする (L1) よりも2人以上の活動 (L2, 3, 4) を好む傾向が示された。

授業で好きな活動については、1年間スペイン語を学習した2年生と授業初日の1年生の結果は比べられないが、両グループともに教科書を使って学ぶ (M1) より、映像を見たり (M2) ゲームやロールプレイング (M3)、コンピュータなどを使う (M4)、歌う (M5) といった活動を好むことが示された。

今年度は両学年ともに、歌や映像教材、携帯電話のアプリケーションを使った全員参加型のゲームなどを取り入れる授業計画となっている。特に1年生はジェスチャーをするなど体を使って覚える (F12) 学習の仕方を好むことが分かったため、このようなアクティビティを多く取り入れていきたい。

5. 結論

本研究を通して、学習者ニーズを把握する重要性を再認識したので、今後はこのような調査を定期的実施していくことにしたい。今回の結果を踏まえて、早速現行の授業に工夫や改良を加え、今後のコース設計の参考資料として活用したい。

本調査の質問票は基礎情報を広く収集することが優先されたため、個々の項目においてその結果に至った背景・要因までは特定できなかった。今回浮き彫りになったモチベーション維持の問題や1、2年生の間で異なる傾向を示した要因の特定については、今後の課題としたい。

学習効果の高いコースを目指し、本アンケート調査・分析結果を基に、具体的・実践的な授業設計に向けたより詳しい調査を続けていきたい。

註

- 1) 「ニーズ」には様々な定義が存在する (Aguirre Beltrán, 2004)。Richards & Schmidt (2010, p. 389) の提案に従い、ニーズ分析とは「学習者の目的、言語の使用状況、使用されるコミュニケーションの種類 (書く/話す、フォーマル/インフォーマル等) について分析すること」とした。
- 2) 無効回答に関しては、GIDE (2012) に従い、各設問につき一部でも無効回答があったものはその設問についての全てのデータを無効とした。無効回答とは、1問しか選択できない設問についての複数回答と白紙回答のこととする。

引用文献

- Aguirre Beltrán, B. (2004). Análisis de necesidades y diseño curricular. In J. Sánchez Lobato y I. Santos Gargallo (Dirs.), *Vademécum para la formación de profesores*. (pp. 643-664). Madrid: SGEL.
- GIDE (2012). *Cuestionario sobre análisis de necesidades aplicado a los alumnos universitarios japoneses de español -Informe-*. <http://gide.curhost.com/publicacionesCuest.html> (閲覧日: 2019年8月22日)
- 平井素子・塚原信行 大学におけるスペイン語学習動機に関する記述分析報告, 文部省科学研究費補助金研究事業「新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で使用できる共通言語教育枠の総合研究」平成26年度 文部省科学研究費補助金研究成果報告書, 20-28, 2014.
- Instituto Cervantes (n.d). *Diccionario de términos clave de ELE*. https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/diccio_ele/diccionario/ (閲覧日: 2020年1月10日)
- Richards, J. C., & Schmidt, R. (2010). *Dictionary of language teaching & applied linguistics* (4th ed.). London: Longman.

横山友里 (2017). 「初修外国語としてのスペイン語教育の意義と展望」『立命館高等教育研究』第17号, 183-197頁, 立命館大学教育開発推進機構.

資料（付録）

	1°		2°		P 値			
	Avg	SD	Avg	SD				
A1. 以前にスペイン語圏の国で暮らしたことがあるから	0	0						
A2. 以前に勉強したことがあるから	2	2						
A3. 自分や身内の誰かがスペイン語圏出身だから	0	1						
A4. 先生、友人、両親などに薦められたから	10	3						
A5. スペイン語圏の文化—音楽、スポーツ、映画、文学、建築、歴史、食べ物などに興味があるから	16	7						
A6. 旅行でスペイン語圏の国に行きたいから	8	3						
A7. 仕事（アルバイト）で必要だから	0	0						
A8. 将来的に仕事上で有利だと思うから	15	1						
A9. スペイン語は世界でもっとも話されている言語の1つだから	20	10						
A10. スペイン語は日本人にとって学習しやすいと聞いたから	9	2						
A11. ほかに関心した外国語がなかったから	2	2						
A12. その他	1	4						
B1. ある	10	4						
B2. ない	83	32						
C1. スペイン語話者の先生と話すため	4.09	0.88	4.00	3.41	0.91	3.00	p < .01	*
C2. 日本に住んでいるスペイン語圏の人と話すため	3.96	1.03	4.00	3.50	0.95	3.00	p = .02	*
C3. スペイン語圏に行った時に現地の人と話すため	4.63	0.73	5.00	4.15	0.91	4.00	p < .01	*
C4. スペイン語の新聞、雑誌、インターネットサイトを読むため	3.42	1.14	3.00	2.68	1.13	3.00	p < .01	*
C5. パンフレットなどを読んで、申込書に記入したりするため	3.03	1.04	3.00	2.47	1.01	2.00	p < .01	*
C6. 小説などの文学作品を読むため	3.02	1.08	3.00	2.12	0.93	2.00	p < .01	*
C7. 自分の専門分野の論文を読むため	2.61	1.00	3.00	2.44	1.09	2.50	p = .42	
C8. テレビや映画のスペイン語を聞き取るため	4.01	1.04	4.00	3.71	0.99	4.00	p = .09	
C9. 歌の歌詞を聞き取るため	4.01	1.03	4.00	3.59	1.09	3.50	p = .04	*
C10. スペイン語でレポートや作文を書くため	3.18	0.99	3.00	2.56	1.14	2.50	p < .01	*
C11. スペイン語でメール、手紙、日記などを書くため	3.35	1.06	3.00	2.68	1.10	3.00	p < .01	*
D1. 自分自身や家族について	3.49	0.99	3.00	3.31	0.82	3.00	p = .32	
D2. 日常生活について（学生生活、アルバイトなど）	4.04	0.88	4.00	3.66	0.86	4.00	p = .03	*
D3. 都市、交通機関について	4.45	0.73	5.00	3.23	0.99	3.00	p < .01	*
D4. 旅行、観光について	4.63	0.60	5.00	4.09	0.87	4.00	p < .01	*
D5. 買い物、ファッションについて	4.42	0.74	5.00	4.03	0.91	4.00	p = .02	*
D6. 食べ物について	4.62	0.65	5.00	4.11	0.89	4.00	p < .01	*
D7. 人づきあい、社会生活について	4.25	0.83	4.00	3.57	0.93	3.00	p < .01	*
D8. 余暇（音楽、スポーツ、読書、芸術など）について	4.38	0.84	5.00	3.94	1.01	4.00	p = .02	*
D9. 体や心の状態について	3.39	0.95	3.00	3.14	1.02	3.00	p = .23	
D10. 天候、環境、自然について	3.66	0.99	4.00	3.11	0.75	3.00	p < .01	*
D11. 住居、道具について	3.69	0.96	4.00	3.17	0.94	3.00	p < .01	*
E1. 基本的な話ができるようになる	4.84	0.45	5.00	4.47	0.80	4.00	p < .01	*
E2. 発音や文法のしくみがわかるようになる	4.76	0.48	5.00	4.43	0.67	5.00	p < .01	*
E3. 簡単な文章が書けるようになる（メール、申込書など）	4.74	0.46	5.00	4.23	0.80	4.00	p < .01	*
E4. 簡単な文章が読めるようになる（パンフレット、歌詞など）	4.76	0.45	5.00	4.37	0.75	5.00	p < .01	*
E5. 検定試験に合格する	4.17	0.83	4.00	3.40	1.02	3.00	p < .01	*
E6. 仕事や自分の専門分野の勉強で使えるようになる	3.94	0.87	4.00	3.70	1.00	4.00	p = .08	

(*p < .05)

(1°: 1年生; 2°: 2年生; Avg: 平均; SD: 標準偏差; MD: 中央値)

	1°			2°			P 値
	Avg	SD	MD	Avg	SD	MD	
F1. 先生がすべてを説明してくれる	3.65	0.92	4.00	3.71	0.97	4.00	p = .86
F2. 黒板やプリントなど目で確認しながら学ぶ	4.07	0.82	4.00	3.71	1.03	4.00	p = .09
F3. あらかじめ定められた順序どおりに進む	3.70	0.94	4.00	3.20	0.98	3.00	p < .01 *
F4. メモをとりながら勉強する	4.11	0.83	4.00	3.71	0.94	4.00	p = .02 *
F5. 文法規則を理解しながら学ぶ	4.26	0.84	4.00	3.80	0.92	4.00	p < .01 *
F6. 間違えたとき、なぜ間違えたかを考える	4.25	0.83	4.00	3.97	0.91	4.00	p = .10
F7. 音を聞きながら覚える	4.67	0.58	5.00	4.06	1.01	4.00	p < .01 *
F8. 友人や母語話者と会話しながら覚える	4.29	0.91	5.00	3.71	0.91	4.00	p < .01 *
F9. 穴埋めや置き換えなどのパターン練習をする	3.71	0.92	4.00	3.66	0.92	4.00	p = .73
F10. 想像力を伴う練習や即興で行う活動をする	3.51	1.03	4.00	3.26	1.15	3.00	p = .26
F11. 練習問題は一度やったら見直さない	2.33	0.89	2.00	2.57	0.99	3.00	p = .29
F12. 教室内移動、ジェスチャーをするなど体を使って覚える	3.78	1.20	4.00	2.80	1.06	3.00	p < .01 *
F13. 間違えることを気にしない	3.89	1.13	4.00	3.94	1.04	4.00	p = .93
F14. 手順を考えてから活動始める	3.77	0.79	4.00	3.51	0.94	3.00	p = .14
G1. 規則を学んでからそれを実際の文にあてはめる	4.33	0.85	5.00	3.89	0.87	4.00	p < .01 *
G2. 実際の文を見て、自分で規則を発見しようとする	3.57	1.10	4.00	3.50	1.19	4.00	p = .87
G3. 自分の知っている他の言語の規則と比べてみる	3.65	0.98	4.00	3.25	1.06	3.00	p = .05
H1. 単語カードや意味分類リストを作る	3.99	1.00	4.00	3.56	1.26	4.00	p = .09
H2. 音や意味から何かを連想して覚える	3.97	0.97	4.00	3.64	1.06	4.00	p = .10
H3. 何度も語を書いて覚える	3.69	1.16	4.00	3.19	1.20	3.00	p = .03 *
H4. 既習の外国語の語彙を参考にする	3.94	0.84	4.00	3.33	1.27	3.00	p = .02 *
H5. 発音しながら覚える	4.52	0.76	5.00	3.75	1.14	4.00	p < .01 *
I1. 文脈から語の意味を推測する	4.35	0.73	4.00	3.83	1.07	4.00	p < .01 *
I2. わからない語すべての意味を調べる	3.76	1.11	4.00	3.76	1.11	4.00	p = .73
I3. 大まかな内容を取るよう努める	4.39	0.73	5.00	3.81	0.94	4.00	p < .01 *
J1. 和英辞典、西和辞典、和英、英和などを使う	4.29	0.87	5.00	4.39	0.92	5.00	p = .37
J2. 実際の文章、モデル文をまねる	3.97	0.93	4.00	4.14	1.00	4.50	p = .25
J3. まず書こうとすることのアウトラインを作る	3.87	0.91	4.00	3.31	0.94	3.00	p < .01 *
K1. 教科書に出ている会話モデルをまねる	4.26	0.91	4.00	4.31	0.78	4.50	p > .99
K2. 困ったら先生または相手の助けを借りる	4.34	0.81	5.00	4.31	0.81	4.50	p = .78
K3. ジェスチャーを使う	4.30	0.88	5.00	3.94	0.97	4.00	p = .047 *
K4. 話す前に言いたいことを練る	3.76	0.95	4.00	3.31	1.17	3.00	p = .04 *
L1. 1人で練習問題をする	3.41	1.08	4.00	3.39	1.11	3.00	p = .92
L2. ペア練習	3.99	1.03	4.00	3.64	1.00	4.00	p = .04 *
L3. グループ練習	3.82	1.09	4.00	3.50	1.14	4.00	p = .14
L4. 先生の説明をクラス全員が聞く	3.92	0.91	4.00	3.78	0.97	4.00	p = .48
M1. 教科書を使って学ぶ	3.74	0.91	4.00	3.58	0.86	3.50	p = .29
M2. ビデオ、映画を見る	4.73	0.51	5.00	4.36	0.82	5.00	p = .01 *
M3. ゲームをしたり架空の役割を演じたりする	3.48	1.25	3.00	3.75	1.06	4.00	p = .34
M4. コンピュータなどを使う	3.69	1.00	4.00	3.69	1.05	4.00	p = .89
M5. 歌う	3.45	1.24	4.00	3.03	1.24	3.00	p = .08
N1. 良い教材	3.67	1.01	4.00	3.78	0.97	4.00	p = .64
N2. 先生の性格や指導力	4.73	0.57	5.00	4.42	0.76	5.00	p = .01 *
N3. 授業の雰囲気	4.73	0.53	5.00	4.31	0.91	5.00	p < .01 *
N4. 授業で味わう達成感	4.48	0.77	5.00	4.03	0.93	4.00	p < .01 *
N5. 良い成績をとれる可能性	4.26	0.91	5.00	3.78	0.95	4.00	p < .01 *
N6. 自分の将来に役立つ可能性	4.29	0.93	5.00	3.91	1.05	4.00	p = .06
O1. スペイン語は社会的に見て地位の高い言語だと思ふ	4.33	0.74	4.00	4.06	0.78	4.00	p = .05
O2. スペイン語は将来自分にとって役立つと思ふ	4.37	0.72	4.00	4.03	1.07	4.00	p = .19
O3. スペイン語話者やスペイン語圏にいいイメージを持っている	4.33	0.72	5.00	4.19	0.78	4.00	p = .10
O4. 外国語の学習は自分に向いていると思ふ	3.82	0.94	4.00	3.28	0.90	3.00	p = .02 *
O5. 外国語の授業でクラスメートと自分の優劣を考える	3.32	1.15	3.00	3.11	1.20	3.00	p = .33
O6. 自分は積極的に外国語の授業に参加する	4.12	0.81	4.00	3.56	1.12	3.50	p < .01 *
O7. 授業中に発言するのは苦手である	3.39	1.21	3.00	3.22	1.18	3.00	p = .57

(1°: 1年生; 2°: 2年生; Avg: 平均; SD: 標準偏差; MD: 中央値) (*p < .05)

Practical Research Reports

**Student Questionnaire Results for Improving Courses in Spanish
as a Second Foreign Language:**

**Juntendo University Faculty of International Liberal Arts
(Spring Semester 2019)**

**Saori KOBASHI¹⁾* Carlos TORRALBA²⁾
María de las Nieves RODRÍGUEZ³⁾ Kimiko TSURUGA⁴⁾**

Abstract

At Juntendo University, the number of students studying Spanish as a second foreign language increased approximately two-fold in the previous year. Based on this, a student survey was conducted to understand the learning situation, objectives, and needs of students and to improve the Spanish language course. For this survey, we used a questionnaire prepared by GIDE (2012a, 2012b) to analyze ways of improving Spanish language teaching. In the present paper, we summarize the results and add some considerations. A total of 129 first and second-year students who attended Spanish courses at the school during the Spring 2019 semester took the questionnaire. Students were questioned about their reason for learning the Spanish language, the amount of goals achieved, preferred learning style, etc. Statistical analysis was used to examine the differences between first and second-years. As a result, significant differences were observed in more than half of the items, and it was confirmed that there were differences in the situation and needs of each group. Based on the results of this survey, we would like to conduct surveys on more specific items for program improvement in the near future.

Key words

Spanish language, Foreign-language learning, Foreign-language acquisition,
Higher education, Needs analysis

¹⁾ Faculty of International Liberal Arts, Juntendo University (E-mail: s-kobashi@juntendo.ac.jp)

²⁾ Faculty of International Liberal Arts, Juntendo University (E-mail: torralba@juntendo.ac.jp)

³⁾ Faculty of International Liberal Arts, Juntendo University (E-mail: rodriguez@juntendo.ac.jp)

⁴⁾ School of Commerce, Meiji University (E-mail: ki-igarashi@juntendo.ac.jp)

* Corresponding author: Saori KOBASHI

[Received on August 30, 2019] [Accepted on January 23, 2020]